

甲南平生拾芳奨励金

(マネジメント創造学部 2020年3月卒業)

甲南大学で学んだ4年間と私の夢

まず初めに、甲南大学100周年記念栄誉特待生の制度にご賛同・ご協力頂き、支援を行って頂いた皆様に深く感謝申し上げます。

私が甲南大学で過ごした4年間はあっという間でしたが、自身を成長させる良い機会となりました。私は、愛媛県の田舎町の出身で1人暮らしも初めてで、慣れないことが多々ありました。しかし、良き友達や良き師に出会えたため、学校やこの関西に馴染むのにはさほど時間はかかりませんでした。

大学生活では、勉学に励むだけでなく、フィールドワークなどを通して、課題意識を持った現場に足を運び、学んできました。1年次には、フィリピンスタディーツアーに参加し、フィリピンでの社会問題を知り、現地の人々の交流によって、フィリピンについて理解を深め、視野を広げることができました。2年次と3年次の2度に渡って、国際課題への関心が高まり、模擬国連に参加し、自身の未熟さを感じながらも新しい視点と人脈を広げることができました。また、1年次にフィリピンを訪れた際に孤児院が社会問題であることを知り、2年次には実情を知るため、孤児院でのインターンシップに参加しました。孤児院のスタッフの方々に教わったり、孤児院で寝泊まりしていたので、子供たちと深く関わったりすることで現状や課題を見ることが出来ました。そして、私の大学生活で最も力を入れ、成長に繋がったと自負する出来事は、消滅可能性都市36位である故郷・愛南町でのフィールドワークです。佐藤教授ご指導の元、1から授業を作り、企画から実施までオーガナイザーとして、責任を持って行いました。内容としては、地域活性化を目的として、民泊や農業体験、地域団体との意見交換会などを大学の下級生に体験してもらうというものです。そこで、大学生と地域との交流が生まれたことで、4年次でも就活の合間を縫って、多くの時間を愛南町フィールドワークの調整に費やし、2年目も実施することができました。この経験から、自分のやりたいことを実現する難しさを痛感させられましたが、これは人生をかけてやり遂げたいことであるということ強く感じました。

将来の展望としては、今後10年以内には故郷に帰り、地域で事業を営んでいる人と新しい顧客やパートナー(地域内外)を繋げるマネージャーのような役割を担える人材になりたいと考えております。この春からは、株式会社ニトリの新入社員として働かせて頂きますが、様々なスキルを身に付け、人脈を広げながら、故郷のために何ができるか考え続けていきます。まだ明確には人生設計を立てられておりませんが、平生さんのように社会に役立てる人になりたいと考えております。甲南大学での4年間やこれまで支えてくださった多くの方のおかげで、私はこのような夢や希望を持ち、社会に出ることができました。

最後となりますが、今回このようにご支援頂いた皆様、並びに支えてくださった教職員の皆様、本当にありがとうございました。これからは、この感謝の気持ちを忘れず、社会に対して恩返しして参ります。